

多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 委託業務名・概要

- (1) 業務名 「とよはし外国人児童生徒アフタースクール支援」
- (2) 概 要（事業の要約・事業の目的など）

公立小学校に在籍する外国人児童生徒を対象に、夏休み中に学校と「とよはし日本語教室」実施委員会が協働して日本語や教科学習の支援(サマースクール)を行った。

毎週土曜日に豊橋市に在住する外国人児童生徒を対象に、日本語学習初期の児童から高校入学希望の生徒まで多岐に渡って日本語や教科学習の支援(サタディスクール)を行った。

夏休みの事業(サマースクール)実施前に対象校3校でボランティアの研修会を行い、土曜日(サタディスクール)の活動では新たに学習カリキュラムを考案し、それぞれ日本語や教科学習の支援の充実を図った。

2 実施事業について

(1)実施時期 平成18年7月1日(土)～平成19年2月28日(水)

(2)実施場所 豊橋市立岩田小学校、石巻小学校、汐田小学校
豊橋市多米校区市民館、東陵地区市民館

(3)事業の具体的内容

- ・サマースクールは、岩田小学校で一日2時間のカリキュラムを5日間、石巻小学校、汐田小学校では一日1時間のカリキュラムを10日間実施。3校とも国際担当教員と各ボランティアリーダーが夏休み前に事前打ち合わせをして学習支援に臨むことができた。
- ・サタディスクールは、毎週土曜日、計30回実施。今年度は公立学校に通っている児童生徒に加え、近隣のブラジル人学校に通っている生徒も支援した。児童生徒が通っている学校の生活発表会や文化祭、地域の祭りに参加したり、教室から離れたところでの日本語学習支援にも力を入れた。

3 実施結果（実施の効果等）

(1)サマースクール

今回サマースクールを実施した3校のうち、岩田小学校では従来からサマースクールを学

校独自で行っていた。しかし児童数に比べ国際担当教員の人数が少なかったため今年度「とよはし日本語教室」のボランティアが国際担当教員のサポートに付くことで、より手厚い指導ができた。また、石巻小学校・汐田小学校においては、今年度国際学級が設立されたということもあり、国際担当教員とともに指導方法を模索しながら学習支援を行った。

各学校でサマースクールのお知らせや保護者に対しての説明などを積極的に行っていたので、児童生徒の参加率が高かった。また、事業実施前の学校側とボランティアリーダーの事前打ち合わせや、サマースクール事前研修会を行うことで、ボランティアとしての仕事が学校側にもボランティア側にもしっかりと把握でき、支援がスムーズにできた。

●サマースクール参加者延べ人数（7/24,25,26,27,28,31,8/1,2,3,4,7,8 実施）

石巻小学校：総児童数:231名 国際取り出し児童数:29名 国際担当教員数:1名

	児 童	ボランティア	教員、教育相談員
延べ数	109	53	18

汐田小学校：総児童数:583名 国際取り出し児童数:31名 国際担当教員数:2名

	児 童	ボランティア	教員、教育相談員
延べ数	139	67	23

岩田小学校：総児童数:983名 国際取り出し児童数:93名 国際担当教員数:3名

	児 童	ボランティア	教員、教育相談員
延べ数	230	54	24

☆3校合計

	児 童	ボランティア	教員、教育相談員
延べ数	478	174	65

(2) サタディスクール

サマースクールと並行して行った毎週土曜日のサタディスクールでは、昨年来活動しているNPO 団体「フロンティアとよはし」のボランティアに加え、(財)豊橋市国際交流協会の日本語指導ボランティアに協力を依頼した。他教室のボランティアと協働することで支援方法の拡充が図られ、他地域の現状について情報交換をすることができた。また、サマースクールに参加したボランティアが学校の現状を他のボランティアに伝えることで、サタディスクールでの支援方法についても学校の生活を視野に入れて計画することができるようになった。

サマースクールに参加したボランティアを通じ、地域で活動している団体のことを学校側や

児童生徒の保護者も知ることとなり、その結果2、3学期の参加生徒数が増加した。参加生徒はサマースクールで教員以外との学習基盤ができていますので、サタディスクールでの学習も積極的に参加するようになった。サタディスクールに参加している児童生徒の学校の生活発表会や文化祭にボランティアが積極的に参加し、小学校や中学校の活動を体験することも行った。

また、多米小学校で行われた外国人保護者の会に日本語教室として参加し、地域からの意見を学校側や保護者に発表した。こういった日本語教室運営以外への活動も積極的に行い、地域に活動を知ってもらうとともに、今後も共同して支援していくことを確認した。

●サタディスクール参加者延べ数（2時間/回）

月	多米教室(多米校区市民館)			緑ヶ丘教室(東陵地区市民館)		
	回数	生徒	ボランティア	回数	生徒	ボランティア
7	5回	42	19	5回	27	18
8	4回	23	19	4回	8	9
9	4回	47	27	4回	19	13
10	4回	41	27	3回	17	14
11	5回	61	32	3回	22	17
12	3回	45	27	3回	23	12
1	3回	31	20	4回	39	17
2	4回	49	27	4回	27	15
延べ数		339	198		182	115

4 事業の特質（工夫した点など）

今回の事業では、従来一団体で行っていた活動をいくつかの団体で行うことでそれぞれの団体の特質を生かした効果的な支援ができた。

サマースクールでは3校をそれぞれの団体のリーダーがまとめることで、学校ごとの要望に柔軟に対応することが可能となり、サタディスクールでは新しく活動に参加したボランティアの意見を取り入れ、団体の活動の幅を広げることができた。

また、「とよはし日本語教室」実施委員会を開くことで、豊橋市内でそれぞれ活動しているボランティアが情報を共有し、お互いに共通認識を持つことで、それぞれの対応が可能となり、よりよい支援ができた。

●「とよはし日本語教室」実施委員会、学校との連絡会

月	日	場 所	内 容
7	6	岩田小学校	サマースクール事前打ち合わせ
	6	汐田小学校	サマースクール事前打ち合わせ
	10	石巻小学校	サマースクール事前打ち合わせ
	24	汐田小学校	ボランティア研修会
	24	石巻小学校	ボランティア研修会
	26	岩田小学校	ボランティア研修会
8	10	豊橋市職員会館	とよはし日本語教室実施委員会
	19・20	豊橋市国際交流協会	外国籍児童生徒日本語ボランティア研修講座
	24	石巻小学校	サマースクール事後反省会
	28	汐田小学校	サマースクール事後反省会
	28	岩田小学校	サマースクール事後反省会
11	8	多米小学校	外国人保護者の会(カナリア会)意見交換会
	9	豊橋市職員会館	とよはし日本語教室実施委員会
12	16	多米校区市民館	サタディスクール事業中間反省会
2	26	豊橋市職員会館	とよはし日本語教室実施委員会

サマースクールの3校をそれぞれの3団体が管轄することで、従来のボランティア教室の体制を学校の中で展開することができた。事前打ち合わせ時に、ボランティアとして可能な支援を学校側に示すことで、学校側もボランティアへの依頼が適切に行えたと思う。

また、サマースクール初回に各校でボランティアに対しての研修会を行ったことで、学校側の要望やボランティアとしての役割が統一され、活動が円滑に進んだ。この研修会も、各校が研修内容をボランティアリーダーと検討しながら行うなど、一つ一つのことに学校側も話し合いの機会を設けてくださり、全面的に協力していただいたことがサマースクール成功の大きな鍵だったと思う。

今回それぞれの学校を各団体で管轄したが、必ずその団体の担当した学校にボランティアに行くのではなく、それぞれのボランティアは活動先を3校から自由を選べることにした。その結果、自分の居住地域に一番近い学校を選ぶことで他団体のボランティアとの交流が自然に図れサマースクール以外の互いの活動についても情報交換をできたことは大きな成果であった。

また、各授業終了後に10分程度の反省会を開き、その日の活動内容、検討事項を確認するとともに、毎日の記録をとることとした。反省会にはなるべく担当の教員も参加していただき、学

校とボランティアのお互いの目線で見た課題が見え、児童により充実した支援を行うことができた。毎回の記録をとることで、児童の特性や活動の効果などがはっきりとわかった。

こういった反省会での課題や毎回の記録などが、次年度以降の学校側の活動の大きな土台となり、国際担当教員への支援にもつながることと思う。学校と地域が協力することで、双方の理解が深められ、今後の地域活動への理解促進にもなると思う。また児童から「楽しく学習できた。」という一言が出るように、学校、ボランティア双方で協力し教室運営を工夫できたことがよかった。

5 今後の課題

(1) サマースクール

① 継続実施

学校側としては、次年度以降学校独自でサマースクールを展開していけるかが大きな課題として残った。サマースクール終了時には、「次年度もこういった地域支援が必要。」という教師からの要望も聞くことができた。今回の県委託事業は単年度なので、今後の見通しが無いという返答になってしまい、結果「種をまいて水をやらない」という事業に終わってしまう危険があった。しかし、次年度は豊橋市がこの事業を引き継ぎ、新たに展開して新事業として立ち上げる方向に進んでいる。今回の経験を生かし、よりよい支援方法を検討している。

② 実施必要校の増加

豊橋市内に国際教室を持つ小学校は10校。その中でサマースクールを実施できているのは6校。そのうち3校は今回新たに実施した学校、残り2校は昨年度フロンティアとよはしが支援し基盤を作り今年度より独自で開催。1校は学校独自に実施していた学校。その他の4校はこれまで実施していない。

また、中学校でも国際教室を持ちサマースクールを要望する学校は多い。更に国際教室のない学校にも外国人児童生徒は在籍し、その多くは日本語支援を必要としている。こういった現状の中で、学校側でも地域活動を見直す風潮が出てきている。しかし、今回1校開催するのに必要なボランティア数を考えると、市内全域の外国人児童生徒に充実した支援を提供するにはどのくらいの規模になるのかは、現段階では予想がつかない。

(2) サタディスクール

① 親子共通の認識を持つ

子どもは学校や地域で日本語を学び日本語の生活に順応していくが、それと反するように大人社会はポルトガル語やスペイン語、中国語だけで生活できる便利な社会になりつつある。

サタディスクールでは親子で日本語を学び、同じものを学習するという共通の情報や認識を

持ち家庭内での生活環境の充実を図るということも視野に入れている。私たちボランティアは日本語を媒体として、日本の文化や豊橋の生活を親子一緒に理解してもらい、親子で住みやすい状況を作ってほしいと考えている。子どものみの支援でなく、そこに居住している全ての人を対象にした支援がこれからはますます重要になってくると思う。

②日本語指導と地域相互理解

サマースクール時の協働が、結果として8月以降も他の団体で活動するボランティア同士の交流につながった。同地域・同目的で活動しているのになかなか交流する機会がなく各団体がそれぞれ孤立した状態が続いていた。各団体ともボランティアの確保という点で工面しているので、豊橋地区で活動している団体の横のつながり(ネットワーク)が今回のような協働事業で強くなり、今後のそれぞれの団体の活動の幅が広がることを期待する。

6 その他参考事項

(1)規 模

昨年度までは、一箇所で大規模に事業を行なっていたが、今年度は小規模・短期間・少人数・多地域で効率よく効果を挙げることを目指した。適材適所という言葉があるように、各団体の良さを生かし、学校地域にあわせた活動を展開した。

近年、豊橋市に外国人が居住する地域は拡散傾向にある。地域の実情にあわせ、より多くの地域で小規模に展開していくことが望まれていることがわかった。

(2)ボランティア

ボランティアの中には、(財)豊橋市国際交流協会が主催している「日本語指導ボランティア養成講座」を終了後、ボランティアに参加し講座で培った知識を生かして活動したボランティアも多くいた。ボランティア活動をしたいと思っているが、活動場所を探しているボランティア予備軍の多いこともわかった。今後は、そういった人材を育成することも活動の活性化につながる。

(3)協働事業

今回、(財)豊橋市国際交流協会が中心となり「とよはし日本語教室」実施委員会を立ち上げた。参加3団体の情報の収集や提供、豊橋市や各学校との連絡調整の窓口、個人ボランティアのケアなどの日本語指導以外の運営部分を担うことで、各団体はいままでよりフットワーク良く活動ができた。1団体の活動範囲は狭く、その効果もけっして大きくない。同じ活動をしている団体が協働することができたため、ここまでの結果を残すことができた。次年度以降は豊橋市が新たに多文化共生事業に対しての支援を展開することが決定した。

今回のこの事業は単年度事業として終わらすことのないよう、豊橋市で地域活動と行政・市民の協働事業として次年度以降も展開していく。

(4) ボランティアの感想

＜サマースクールに参加して＞

- ・初めてなので全てが手探り状態でした。
- ・学校よりサマースクール参加者名簿、出欠表、担任から学習の様子、要望等をいただき、大変助かった。
- ・今日は来るかな？と思っていた児童が参加してくれた。明日からも来るとのこと、嬉しいひとときとなった。
- ・今回の収穫の一つは、日頃の学習についていけず、かつ自宅で学習できる環境ではない子どもたちが毎日ちゃんと参加してくれたこと。
- ・このサマースクールで少しずつ子どもたちが成長しているのだと思った。
- ・国際学級の先生の援助が大きかったと思う。
- ・サマースクール最終日、校長先生がボランティア一人ひとりの感想を聞いてくださった。
- ・楽しかった。
- ・先生という仕事がいかに大変かわかりました。今後の糧にしたいと思う。

＜サタディスクールに参加して＞

- ・外国人学校の生徒や親子で参加してくれる人がいるなど、地域に密着した活動が定着してきたと思う。
- ・プリントなど学習事項が決まっている子供の指導は関わりやすかった。日本育ちの日系ブラジル人の子どもたちに、日本人が大切にしたい心を伝えるように努めた。
- ・子どもに興味を持たせるための遊びを控えていたら、「工作がないなら、帰る(今日はおもしろくなさそう)」との返事、もう少しできないところをやって欲しいなあと思いながらも、帰っていく児童の背中を見送ることになってしまった。
- ・8月から新しい日本人ボランティアメンバーとして仲間入りした。継続して参加している学習者は確実に進歩しており、学習意欲も高まってきているので、今後がとても楽しみ。
- ・来年は更なる日本語指導の研究、行事やイベントの企画・実施をすすんでやりたいと考えている。
- ・親子で参加している学習者は大変熱心だった。お母さんも(予習がしてあり)学習には大変前向きだった。勉強の一つになるかな～と思い、他の教室で製作した日本の歌のプリントを差し上げたらとても喜んでくれた。歌詞を中国語に訳す事が出来るかどうか聞いてみたところ、『そういう事は私の趣味です。』と言ってくれた。
- ・その国の文化や習慣も知ることができ、自分も勉強させてもらっている気がする。
- ・9月から活動しており、初めは知識も経験もなく本当に手探り状態だったが、今では少しずつだが自分なりのやり方が掴めて来たと思う。
- ・学習者たちの意欲や明るさ、優しさにも非常に支えられていると実感する。